

IGF 2023 に向けた国内 IGF 活動活発化チーム 第 6 回会合 議事録

1. 会合の概要

日時： 2021 年 8 月 30 日(月)17:30～19:10

会場： オンライン

主催： 一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数： 23

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

| | |
|--------|-----------------------|
| 飯田 陽一 | 総務省 |
| 上田 格 | 日本電気株式会社 |
| 小畑 至弘 | BizMobile 株式会社 |
| 加藤 幹之 | MK Next |
| 上村 圭介 | 大東文化大学 |
| 神谷 英美 | 総務省 |
| 佐藤 信二 | 個人 |
| 実積 寿也 | 中央大学 |
| 柴山 佳徳 | 総務省 |
| 関 裕介 | 総務省 |
| 高松 百合 | 株式会社日本レジストリサービス(JPRS) |
| 武田 真理 | 総務省 |
| 立石 聡明 | JAIPA |
| 中田 諭輔 | 日本ネットワークイネイブラー株式会社 |
| 二島 勢津子 | 総務省 |
| 八田 真行 | 駿河台大学 |
| 浜田 忠久 | JCAFE |
| 堀田 博文 | JPRS |
| 本田 聖 | 個人 |
| 前村 昌紀 | JPNIC |
| 森口 友里 | 株式会社インターリンク |
| 森下 大 | 総務省 |
| 山崎 信 | JPNIC |

司会進行： 前村 昌紀(JPNIC)

議事録案作成： 山崎 信(JPNIC)

2. 資料：

1. 第5回会合議事録案
2. IGF2023 日本開催に向けた働きかけリスト・テーブル
3. (第3回会合資料5を修正のうえ再掲) IGF2021 事前イベント検討事項 (イベントサブチーム)

3. アジェンダ：

3.1. 本日の打合せの目的確認

- 前回・前々回議事録案の確認
- IGF2023 ホスト (政府) としての検討状況の共有
- IGF2021 事前イベントに向けた準備状況の共有

3.2. 前回議論の振り返り

- 第4回会合議事録案の確認
- 第5回会合議事録案の確認

3.3. 宿題の進捗確認

| No | 状況 | 内容 | 担当 | 期日 |
|----|----|--------------------------|----------|----------|
| 10 | | 第4回会合の議事録案および録画のラストコール実施 | 山崎 | 8/30-9/6 |
| 11 | | 第5回会合の議事録案および録画のラストコール実施 | 山崎 | 9/6-9/13 |
| 12 | | プログラム提案採否案作成 | プログラムチーム | 9/上旬 |
| 13 | | 事前会合の日程確定 | 山崎 | 8/30-9/6 |

3.4. IGF2023 ホスト (政府) としての検討状況報告

3.5. IGF2021 事前イベントについて

- 3.5.1. 進捗共有・議論：プログラム検討サブチーム
- 3.5.2. 進捗共有：ステークホルダーエンゲージメントサブチーム
- 3.5.3. 進捗共有：イベントサブチーム

3.6. Todo 確認

3.7. 次回打合せについて

3.8 その他

4. 議論の概要

冒頭で前村氏が司会をすることについて異議がないか確認が求められたが、特に異議はなかった。次いでアジェンダに沿って議論が行われた。

4.1. 本日の打合せの目的確認

特にこれまでと違う点はないため、省略された。

4.2. 前回議論の振り返り

山崎より、第4回、第5回会合議事録について以下の通り説明した（番号は宿題で附番されているもの）：

- 10) 先週(8月23日にメーリングリスト(ML)にて)第4回会合議事録案と録画の確認を依頼し、その期限が本日(8月30日)17時であったこと、引き続いて8月20日から9月6日までラストコール期間とする
- 11) 第5回会合議事録案と録画は本日から9月6日まで確認をお願いし、9月6日から13日までラストコール期間とする

次いで、宿題13番の事前会合の日程について、本日から1週間以内には確定させたい旨説明した。その後、第5回会合の議事録案の内容の要約を次の通り共有した：

- 総務省飯田氏より G20 などの海外出張報告、および IGF 2023 を日本に誘致した理由について共有いただいた
- プログラムサブチームよりプログラム提案状況について共有
- ステークホルダーエンゲージメントサブチームより、働きかける人が表明された
- 有力団体に参加いただくためには、ということについて意見があった
- 会合に先立ち小畑氏より ML に投稿されたメールについて本人よりコメントがあった
- NRI について上村氏と実積氏よりコメントがあった

4.3. IGF2023 ホスト（政府）としての検討状況報告

飯田氏より次の発言があった：省としての体制づくりはあまり進んでいないが、内部では相談しており、今後のアイデアを自分なりに作成したので、その段階という前提でお話する。2023年のIGFに向けて対応するためには、各ステークホルダー全体をまとめる協議会のようなものが必要だと思っている。いつ頃発足できるかは今後の進め方次第だが、先のことを考えると来年のそれほど遅くない時期には発足できたらよいと思っている。まだ自分個人の考えレベルだが、マルチステークホルダーの代表がトップとなりオールジャパンのインターネットコミュニティとして対応するという組織作りができればよいと思っている。日本のインターネットガバナンスについて考えていただいているコミュニティの皆さんには、総務省と一緒に事務局的な推進役を担ってもらうのがよいと考えている。我々が共同で準備を進め、その土台の上で各コミュニティに各分野を代表する考えや活動をしてもらうことを想定している。その全体の設定をするのを皆さん（本チーム）と総務省でやっていけるとよいと

思っている。2023 年に向けて、総務省も含めすべてのステークホルダーが一致団結して取り組まないといけない大変な行事だと思うので、ぜひとも NRI としての結束も固めていただいて、2023 年を待たずに NRI の機能を充実して 2023 年以降さらに発展していくという流れができればよいと思っている。IGF 2023 日本開催は第一段階として踏み台にして（日本の NRI が）発展することができれば、日本としての成果の一つになると思っている。もちろん 2023 年の IGF 自体がグローバルに成功することが最も重要だと思うので、そこは重視しなければいけない。グローバル IGF の観点ではグローバルサウスへの配慮、ステークホルダーとしてのポリシーメーカー＝国会議員の参加の拡大などいろいろなテーマがあるのでこういった流れを継承しながら日本なりの特徴や主張を行う必要があると思っている。これらを経て日本のインターネットコミュニティが発展する一つの機会となることも併せて目指すべきと思っている。これらを整理して、どこに声を掛けるか、誰が表に立つのか、財政的なことも含めどのように手当てするかなどを詰めていかなければならず、総務省の中ではやっちはいるが、もしわれわれが一体で事務局という形になるのであれば、そういった細かいところまで相談しながらやっければよいと思っている。必ずしもすべてを均等に負っていただくのは適当ではないかもしれないので、その実現方法は相談しながらということになると思う。責任うんぬんよりは、総務省と今集まっている皆さんが 2023 年の IGF の推進役、主役であると考えていただき、今後の組織作りにも参加いただきたいと思っている。来月開催予定の UK IGF をはじめ、他の NRI 会合の様子もぜひ見ていただきたい。私も勉強したいと思っている。

小畑氏からは、2023 年に向けた活動と IGF そのものの活動を必ずしも結び付けないようにしないと、2023 年が終わったら解散といった流れで進めてしまうと、せっかく活発化したのに終わったら予算はなくなった、といった事態になりかねないので、いかにそれを避けるかということと、いかにボトムアップの議論を巻き込むかということについては、皆がすでにいろいろな活動をやっており、IGF という大きな目で見ると、いかにそれ（ボトムアップの議論）をこの流れに巻き込むかが重要と思っている。

前村氏より、既存の活動はインターネットガバナンスと言わなくてもいろいろな ICT の政策という意味ではいろいろなテーマ別の活動があるのでは、とのコメントがあった。

小畑氏より次の内容の発言があった：漫画村の議論が盛り上がり紛糾した際に、いろいろな団体が自分たちの利害を主張するために色々な報告を出してきた。各団体の主張はその団体で見ればすべて正しい。直接利害関係者ではない人が利害関係者を代表して話すみたいなこともよくある。それらがダメと言っているわけではないが、これらを横断的に結び付けてお互いに議論しようというものがないと、いつまでたっても誰々が言っているからといった結論しか出てこない。IGF は議論する場であるというのであれば、いかに議論する場を提供するかというのはとても重要だと思っている。言い換えると、日本の IGF という形で議論していないものについては、全然インターネットガバナンスの要件を満たしていないではないかと。シングルステークホルダーや、そのステークホルダーの一部で議論しているだけで世界も日本も見えていない、視野の狭い話をしているのを、それがダメと言っていないが、広い視野の話もちゃんとできるような環境になっているとよいと思っている。下手にこれ（活動活性化チームもしくは NRI）の立ち上げを間違えると、23 年で終わってしまいかねないことを危惧する。

飯田氏より次の発言があった：23 年が成功することは重要だが、これが日本のインターネットコミュニティの発展に結びつくことも同程度もしくはそれ以上に重要だと思っている。協議会は 2023 年の会

議実施のためのものなので、フォローアップしてもよいし、総括してもよいと思うが、NRI もしくは日本のインターネットコミュニティの議論の場はそれ（IGF 2023 もしくは協議会）を通じてより広く一体化することが必要で、あちこちに散在する活動や議論に対し、ここがインターネットガバナンスの議論の場ということで求心力を持ってくれば自由に議論できる場が広がるのではないかと期待する。自由なことが言えるのがインターネットの良さでもあるので、議論したい人が集まって議論できる場があってそこが日本語を代表するコミュニティとして皆からある程度認知されている状態になっていけばよい。他国、他地域でどうやって成り立っているかは自分にとっての課題であり、UK なり EuroDIG なりを見て色々なことを学べないかと思っている。今回 10 月のイベントに向けて公募した 5 つの課題（プログラム）を拝見したが 5 つとも非常に興味深いテーマであり全部（イベントで）やった方がよいのではないかと思っている。色々な方が色々な場所で色々なことを考えていて問題意識がちゃんとあり、日本なりの課題もあるので、世界に発信していくことができるようになっていくと思う。今回 23 年に向けてというだけではなく、皆さんが考えていることや取り組んでいることが集まり出てきて、うまく互いに自由闊達に議論して進めることができれば、23 年をやった甲斐があるということになると思う。総務省としては、財政的なことも含めてこういった活動を 23 年も含めて支援できるようにしたいと少なくとも個人的には思っている。データ通信課長も多分同じ思いだと思うので、何が必要か、問題意識など自由にぶつけていただき、できる限りのことをするようにしながらまずは 23 年をクリアするように進めていければと思っている。

前村氏より、飯田氏によれば協議会は 2023 年に向けた、および IGF 日本開催に向けた協議会ということだったが、小畑氏からは必ずしも結び付けない方がよいのではないかという考えを提示した、というコメントがあった。

飯田氏からは、23 年をやり遂げるためにそういったもの（協議会）が必要だと思ったら、そこ（IGF 2023 年終了後）で閉じるかどうかはその後の議論によると思っている、というコメントがあった。

小畑氏からは次のコメントがあった：評議会が 23 年に向けて行う活動であれば、（国内）IGF 活動を活発化するのはそこと並行して別にあってもよいのではないか。そうでないと、2023 年に向けて活動を行い、2023 年にその後どうするかを考えるようだとよい結果が出ないので、2023 年に向けて行う活動と並行して IGF を活発化させる活動っていうのはきちんと分けて、KPI (Key Performance Indicator) とは言わないが、進捗管理や、成果をきちんと管理して盛り上げていかないと、結果的には 2023 年が終わって（すべて）終わったとなりかねないと思っている。

前村氏より、同様の顔ぶれで二つ同じようなことを行う組織／会議体があるのは扱いにくいかもしれないので、どの辺りで折り合いがつくのかを考えている、というコメントがあった。

小畑氏より、次のコメントがあった：この二つは内容が違うと思っている。最もよいのは、実行する人が違うのがよいが、そこまで行かなくても、2023 年以降も継続させようと思うと、ターゲットが消えるとそれに向けた辻褃はよどんでしまうので、23 年に向けて辻褃を合わせるのは必ずしも長期的なものとは合わないと思う。今いろいろな団体でいろいろな議論をしているわけだが、分かりやすく言うと皆シングルステークホルダーでやっている。さらに課題だと思っているのは、役所が縦割りとなっており、総務省と文科省でやっている議論は永遠に合流しない。ということは、その下にいる人たちの議論も永遠に合流しないので、そういった壁を取り払わないといけませんが、新たに省庁を跨る議論

の場を作るのか、それとも各省庁の配下で議論をする場を統合した方がよいのか。海賊版を例にとると、いろいろな点で問題があり、例えばフィルターしてしまえ、というのは一つのソリューションかもしれないが、別のステークホルダーから見れば何のソリューションにもならないし、却って害が多いという人もいるし、別の人は何も（対策を）やらないのはどういうことなのか、といったことをいうわけだがそういったワーキングレベルの議論を統合して、その上の省庁間は（議論の場の）統合に目を瞑るのか、いろいろあると思うが、2023 年に向けてテーマを立て、そのために仕組みを作り、2023 でこんな議論ができました、よかったですね、という方向に今からの時間を考えると間違いなく行くと思う。そもそも 2023 年がターゲットなので、2024 年以降に継続させるのは難しいのではと考える。省庁間での調整ですら大変なので、業界間となるともっと大変だと思う。

本田氏より、次のコメントがあった：政府のありようとして、総務省ありきということではなく、例えばデジタル庁や文科省や消費者庁にはそれぞれのアジェンダがあると思う。それを集約・一つに収斂しないといけないということがここで話されているわけではないと思っているが、最も重要なのは様々な声が自由に上げられること、およびいろいろな観点を提示できる場であることである。例えば漫画村問題の時のように、強い方が勝ってしまう、負けてしまうということではなく、何がインターネットの利用の際に起こり、どんな問題が起きているか、その問題がどのように乗り越えられるかというところでいろいろな声が上がって議論するということが重要。とかく皆さんお上に決めてもらうというか、お上にこうやってくれ、これを規制してくれ、これはもっと自由にしてくれなどと言って、極端な方向に持って行ってしまふ。そうすると、利用者サイドとしてはますます使いにくいものになっていくし、息の詰まった遊びのないインターネットになっていくというのが目に見えている。これがここ 10 年 20 年のトレンドなので、ブロードバンドになって良かったということは幾らでもあるが、どんどん使いにくい方向に行ってしまうのではないかと。最も重要なのは皆が言いたい放題言えること。何の団体を代表してとか、何々庁から来ましてとそういうことではないということだと思う。私の希望としては、総務省はお金を出してこれでやりました、責任とりますというコミットメントをして、あとは皆さん来てください、というのをに入れてやっていけばよいのではないかと思う。

八田氏より、次のコメントがあった：IGF 2023 を開催するというだけでも相当大変な大仕事であると思うが、その背景として、インターネットガバナンスへのアウェアネスというか関心みたいなものを高めなければいけないだろうと思う。そういったものを、それほど専門家向けではなくて、ある程度一般向けにアピールというか情報発信するいろいろな立場の人が、インターネットガバナンスに関する折々のトピックを発信するという場が日本語の場合はないような気がしているため、インターネットガバナンスの情報に関するワンストップショップみたいなものが欲しいなと思っている。2023 年はちょうどある意味よいタイミングというか、2023 年位になるまでにプラットフォーム規制や通信の秘密の問題などさらにこじれると思うので。今、日本ではインターネットガバナンスに関心がある人はほとんどいないと思うが、そういった関心が強まるのではないかと思うので、そういった場があるとよいと思った。具体的には、あまり位置付けがよく分かっていないが、CircleID というサイトがあり、ICANN が開設しているように見える (Iomemo, Inc. という会社が運営) が、いろいろな人、インターネットインフラをやっているような人たちがブログ形式の一般向けの文章を載せているサイトがある (チャットで URL <https://circleid.com/> が共有された)。こういったものの立ち上げに際しては、アウェアネスを高める、もしくは関心を高めるというのは、具体的に何をすればよいのか、ということになりがちなので、そういったサイトを立ち上げ、皆さん自分も含めて結構忙しいのでなかなか文章書

く暇はないかもしれないが、何かそういうのがあると、役所の方でも何か参照することもできるだろうし、よいのではないかと。具体的な目標として、おそらく大した費用もかからないし、そういった議論の場みたいなものを作るというのを目標にしてはどうかと思った。インターネットウィークや、情報法制学会など、個別の 이슈がオーバーラップする組織や活動はあるが、情報発信という意味ではどこもいま一つ偏っているというか、まとまったものとしてはないような気がするので、どのみち多くには伝わらないと思うが、そういうものを立ち上げるというのを具体的な目標としてはどうかという提案である。

前村氏より、Circle ID は確かにとても成功していると思う。同様に、ここに来るとインターネットガバナンスのいろいろな情報が得られるというものを IGCJ で試行したが、得られるものよりも害の方が多い状態になっていて、どうしようかと思っている。

小畑氏より、次のコメントがあった：本田さんと八田さんのおっしゃることに大賛成なのだが、最大の課題はそういった活動をどのようにプロモーションするかで、なかなかよい案がない。インターネットガバナンスの議論をするためにインターネットガバナンスフォーラムがあり、特有のオペレーションがある。グローバルな IGF はそのオペレーションに従ってやっており、各国 NRI も国によってはできているところもあれば、あまりできていないところもあると思う。一番やっかいなのは、日本の一般的なインターネットガバナンスに関する活動が全く IGF 的なところと似ている点がないところがあり、この二つを一体どうやって結びつけるのかと。そもそもマルチステークホルダーで議論することそのものに、別にインターネットガバナンスに限らず慣れてないというところがあるので、それをどうやってプロモーションするかというのは、一つの大きな課題である。私が言いたかったのはそこをプロモーションするためにあまり 2023 を強調しすぎると、2023 に向けたプロモーションになってしまい、必ずしもインターネットガバナンスの活動がそれにより活発になるとは限らないのではないかという懸念があるということを手紙で言っただけ。その意味で、これはちゃんと分けて評価しないと、と言っているだけで、同じ人がやってはいけないとか、別々の活動にしないといけないって言う訳ではないが、ちゃんとそこを分けて評価しないと、結果的には 2023 で終わってしまうという可能性が結構高いという風に懸念しているということ。

本田さんの意見については、一番難しいのは、個々人で思っているけれども、誰を代表する訳でもないという、そういった意見を吸い上げるというのは、ヨーロッパとかアメリカとかだと市民団体が担うと思うが、残念ながら日本ではそれほど市民団体が強くないので、そういう意見を吸い上げるのはなかなか難しいと。それをどうやってやるかというのも、プロモーションするだけではなくて、プロモーションした結果意見を吸い上げるというのが非常に難しいので、そのやり方を考えるということも大きな課題かと思っている。

実積氏より、次のコメントがあった：小畑さんが最初に言及した、様々なところで議論があって連結していない、という話については、多分連結していないのは外から見ると IGF が全く認知されていないというのが原因だと思う。そのためには、IGF を通してもらえようとするところからまず進める、というのがやらなければいけないことかなと思っている。その意味で、2023 年をターゲットとするというのは、非常によい話だと思っている。少なくともそこに対し IGF を日本で開催し総務省が手伝ってくれるというところで、とにかく知名度を上げることをやらないと、他の団体が独立して意見を出して政府に直接物申すっていうことを止めようがない。IGF というものがあってこういった議論をしている

というのが、プロモーションの活動ではないかというように 2023 を捉えるべきだと思って、その上で IGF に関する認知が高まったのであれば、お互い協調してやっていく以上のことは多分できないだろう。お互いイベントやる時に協賛とか後援とかっていうことで、参加者ができるだけ重なるようにして、議論が外れていかないようにというか、全体と同じような認識を持って議論していくようにということに努めているということなので、IGF の議論についても特定の団体がまとめてそこがやるというのは今後ともたぶん難しく、複数のところで進むだろうが、技術の問題意識に関しては、お互いに意見を知っているっていうところまでするというのができる。国が、こうではないと IGF って認めない、という強権発動をしない限りは、できるところの限度ではないかという気がする。その意味で 2023 年と別個にその先を走らせてもあまり意味がないと感じたが、2023 年までに IGF というものがあり、ここでこういう議論しているなどと言って、その議論に他の人が参加でき、我々も押し掛けて講演やプレゼンなどしますよ、という位の勢いで 2023 年まで過ごして様子を見るということしかできないと思った。

小畑氏より、次のコメントがあった：私が言及した 2023 年をターゲットとするというのは、国際会議を開催することは今までに IGF に限らず色々あった訳で、会議に向けて準備を行い、会議で何らかの結論を出したり、何らかの成果を上げたりというのは、一般的な政府主導の国際会議のやり方だと思うので、そういう観点で 2023 年を進めていくとまずいのではないかと考えているだけで、実績さんが言ったように、2023 年は大きなプロモーションイベントとしてこれを餌に使いながら活動を活発にしていくというのは別に異論はないところである。やはり認知するだけではなくて互いに議論するような場ができてこない、本当に何かあちらでやっているのかみたいによくある話なので、そこはもう少し乗り越えてやっていくというのは必要ではないかとは思っている。

前村氏より、学会なり個別のコミュニティなりがそれぞれの軸があって活動しているが、その全部が 1ヶ所に集まるための正当性があるといいだろうという点は共有されているが、そういったものがどうやれば作れるかの決定打がないという感じなのかと思った、とのコメントがあった。

小畑氏より、次のコメントがあった：作るのは強引にでも作れるが、問題は成果のないものには誰も参加せず継続しない。作った上でいかに成果を上げるか。今回は議論して何らかの統一的理解を出したり政策が出てきたりするわけではなく、議論して（その結果が）整理される、いろいろ考えていたことで新たな発見がある、といったことは期待できないが、そうであったとしても、それをいかに成果として見せていくか、それをプロモーションしていくかということが一番大変だと思う。

本田氏より、次のコメントがあった：インターネットがこれだけ普及していると現実世界の大きな（もの）が全部このままただちに適用されるような、全く同じガバナンスで動いていると考えている人が一部にいるような気がする。今日本の法規である程度縛れば、このコンテンツは流せない、これはやってはダメ、などいくらでもできる。それで規制していくと、本来インターネットが持っている、伸びる可能性がなくなると思う。インターネットの今までに起きないエポックメイキングなことを生み出せる可能性を自らそいでしまう。今の現行法規にはグレーな部分、例えばウーバーのサービスがタクシードライバーしかダメとか、そういったグレーなところが、実際使ってみたらいい、というような消費者の選択によって勝ち得てきているわけだが、そういうものが全く生まれにくい国になってしまう。とりわけ日本においては。なので、IGF というのはややもするとそういう場に使われないようにということを私は思う。そのため、先ほどの話だと、何かあったら IGF を通して言ってくれ、ここでま

とめてあげるから、というのは無理だと思う。規制を作ったり、問題解決のために縛りを作ったりする組織ではないと思うので、この点は最も重要な観点だと思う。

前村氏より、次のコメントがあった：どのように盛り上げていくかという点は、縛るだけだと盛り上がらないということが言及されていて、そういった場を作るのはとても難しいと思いながら聞いていた。盛り上がっていったとても重要な議論だが、一方で 10 月のイベントに向け具体的にどうやって行くかも考えなければならない。この議論でまだ言いたいことがあるが言えていない方がいたら発言もしくは手を挙げていただきたい。今頂いた議論をどうやって今後運営に向けた方向性にしていくかは結構難しい。一旦ここは総務省からの報告に関連して議論したということで、本日しなければいけないことをカバーした方がよいかと思っている。特に待ったがかからなければ、先に行きたいと思う。進捗共有ということで、プログラム検討サブチームからプログラムの応募状況及び今後について話を頂けると思う。

4.4. IGF2021 事前イベントについて

4.4.1. プログラム検討サブチーム

堀田氏より、次の通り報告があった：プログラム提案が 5 件集まった。委員の中で個別評価をし、今週木曜日（9 月 2 日）に集まって採否を検討することになっている。皆さんに 2 点ご意見を伺いたい。1 点目はパネリスト候補の登壇可否が判明するためには、そろそろ（事前会合の開催）日程が決まらないうと厳しい。2 点目は、当初プログラムは 3 件程度としていたが、例えば 4、5 件にすることもプログラム検討サブチームの中の検討範囲に入れてよいか、ということ。

小畑氏より、次のコメントがあった：5 件の内容が分からないので何とも言えないが、エンゲージメントを広げる方向にあるのであれば、ゲストスピーカーなどを外してでもできるだけ採用した方がよいのではないか。このイベントには 2 つの大きな開催目的があると思う。1 つはエンゲージメントを深める。もう 1 つは IGF をプロモーションする。これらの観点からすると、エンゲージメントを広げるものについてはできるだけ採用した方がよいと思う。もう一つは、進め方に依存するというのがあり、話を互いにしないようなステークホルダーを集めてパネルをやるのであれば、話者は 1 ヶ所に集めた方がよいし、普段から話をしているパネリストが集まるのであれば全員がオンラインでもよいと思うが、それだとエンゲージメントが深まるような提案ではないので、1 ヶ所に集めてやった方がよいのではないか。そうすると時間の制約が出てくると思うので、場合によってはゲストスピーカーを削らないと時間が取れないのではないか。

堀田氏より、3 時間枠でプログラムが 4 つ、5 つというのは厳しいので、平日午後 4 時間でイベントを組むので 1 ヶ所に少なくともパネリストは集まることも考えようと合意いただけるのであれば、委員会もフレキシビリティを持って結果を出せると思っているので、皆様の意見を伺いたい旨発言があった。

加藤氏より、次のコメントがあった：1 プログラムの長さをあまり限定しないで最低 1 時間半とか取れないか。イベントの長さを半日にして 3 時間などにできないか。盛り上げるためにも、短時間の登壇となり登壇者に欲求不満がたまる会議になるよりも、しっかり時間を取るのはいかがでしょうか。

堀田氏より、次のコメントがあった：プログラムの募集を 30 分から 45 分で依頼したため、全提案が 45 分となっている。もう少し長く話した方がよいというのもあるので、プログラムサブチームで、例えば 1 日ではなく 2 回に分けるというのも含め検討したい。活発化チーム外の人からの提案もあるというありがたい状態なので、機会を前向きに捉えてなるべくインクルーシブにするような提案をプログラムサブチームから活発化チームに対してできればと思っている。

小畑氏より、次のコメントがあった：3 時間であればぶっ通しで全部聞いてもらえる確率は高いと思うが、4 時間 5 時間となると全部聞くのは誰にとっても難しくなるので、長くするなら 2 日に分けた方がよいと思う。今回オンラインなので、参加者は現地に行くわけではなく、2 日間となることによって拘束されるわけではない。会場の手配などが大変になるかもしれないが、参加者はそうした方が増えると思う。

前村氏より、応募を拒絶するのはエンゲージメントという意味でありえないし、応募プログラムは内容も伴っているように認識しているので、ぜひとも包摂する方向にしたいのと、イベントが伸びた場合丸一日はつらいので、午後 2 日間くらいがよいと思う、とのコメントがあった。

堀田氏より、意見が揃ったようであれば次のようにしたいとのコメントがあった：プログラムが 5 件あるいは 2 日間ということ視野に入れ、どういうプログラムがよいかを考える。イベントサブチームには 2 日間にする調整を行ってもらい、パネリストが物理的に集まれるよう考えていることを含め検討いただきたい。

小畑氏より、日程はできれば今日決めてしまった方がよいのではないかと、22 日から調整に入るのでは相当厳しいと思う、とのコメントがあった。

前村氏より、イベント開催が 10 月末でもうすぐ 9 月なので、少し急ぐことが必要ではないかと思っている、とのコメントがあり、山崎に対し日程決定についてコメントを求めた。

4.4.3. イベント（ロジ周り中心）検討サブチーム

山崎より、10 月後半で重なる可能性のあるイベント（ICANN72、UK IGF など）を例示した。

小畑氏より、例示した海外イベントは時差があるので日本のビジネスアワーとは重ならないのでは、という指摘があった。

前村氏より、ICANN72 については、参加しなければならない人たちは大変だが、米国西海岸時間なので日本時間で午前 2 時位に開始し朝 10 時くらいまでとなるだろう、とのコメントがあった。

小畑氏より、一般的に月曜と金曜は忙しい人が多いと思うので火曜日から木曜日がよいのではと思う、とのコメントがあった。

山崎より、UK IGF は日本時間で 19 時開始なので重ならないので、これらの日程を避ける必要はなく、27、28 日などになるか、とのコメントを行った。また、本会合出席者だけでなく発表者の都合を聞くかどうか、との質問を行った。

小畑氏より、日程を決めないと調整ができない、とのコメントがあった。

堀田氏より、パネリスト候補が時間を取れるかは重要だが、2日間あれば集まることが可能な日を選んでもらえばよく、柔軟性が2日間与えられることになる。日程を先に決めてから聞いた方がよい、というコメントがあった。

実積氏（パネリスト候補）より、水曜日は都合がつかないが木曜日は16時以降なら出られるが、自分が出られなければ他の人が出ればよい、というコメントがあった。

本田氏より、16時や17時開始であればこの活性化チーム会合と同程度なのでよい気がする、というコメントがあった。

小畑氏より、16時から19時が限界という気がする、あまりにも後ろにずれると通勤などにかかってしまう、というコメントがあった。

山崎より、1回2時間程度として3日間にするのはどうか、というコメントを行った。

前村氏より、無理なくプログラムが入りそう、5セッションやるのであればもう1つのセッションで別の議論のようなものがあるのもよい、というコメントがあった。

小畑氏より、開会式やゲストなどフォーマリティーがあるイベントが2時間で2日ずつというのはあまりフィットしないが、パネルが重要なのであれば3日でもよいと思う、とのコメントがあった。

高松氏より、2時間×3日間はやめた方がよいと思う、理由はセッションが分散するので、参加者が聞きたいセッションだけ参加し参加者数がばらける率が上がるのではないかと、多くても2日×3時間の方がその日のセッションを全部聞く気になり参加者が多めになるのでは、というコメントがあった。

山崎より、10月25日の週の火水木のうち2日間ということで個別に調整したい。今週中に決めたいが、そのような進め方でよいか、との問いかけを行った。

前村氏より、今日決める必要はなくメーリングリストで決めればよいのでは、というコメントがあった。

小畑氏より、日程を決める期日は決めた方がよい、とのコメントがあった。

山崎より、プログラムサブチームの会合までに日程を決めると都合がよいか、と問いかけを行ったところ、堀田氏より、その必要はなく、ラストコール期間を考えるとプログラム決定が9月10日になるのでそのころまでに決まっていればよい、との返答があった。

山崎より、9月3日金曜日17時までとしたいがよいか、と問いかけたところ、特に異論はなかった。

【その後、調整サイトへの入力およびメーリングリストでの議論の結果、10月27日(水)と28日(木)の開催となることが9月9日に決定した。】

4.4.2. ステークホルダーエンゲージメントサブチーム

前村氏より、ステークホルダーエンゲージメントサブチームの状況について、今週中に議論を進めて作戦などを示せるようにしたい、との発言があった。

4.5. Todo 確認

司会より、次いで todo 確認に移り、プログラムサブチームの todo はどういったものがあるか、という問いかけがあった。

堀田氏より、プログラムサブチームの todo としては、9 月 3 日を目途にチーム全体に対して候補セッション案を提示する、との発言があった。

前村氏より、ステークホルダーエンゲージメントサブチームについては、今週中にプランを何らかの形で示すこととしたい、との発言があった。

山崎より、イベントサブチームとしては今週金曜日 9 月 3 日 17 時までに全部の会合日程を決めるのが todo となる、と発言した。前村氏より、議事録確認の状況について質問があった。山崎より、第 4 回については本日確認期間が終わり、本日より 1 週間ラストコール、第 5 回については本日から 1 週間確認でその次の週がラストコールとなる、と発言した。

4.6. 次回打合せ

前村氏より、次回打合せの日程について、22 日としたいが、3 週間おきでよいのか、2 週間おきとして 9 月 13 日や 14 日とした方がよいのか、参加者の意向を確認したい旨発言があった。

本田氏より、3 週おきを守ると事前会合までに 2 回くらいしかできないが、自分としてはこれくらいのペースが参加しやすいが、2 週おきの必要性はうなづけるし、話を進めるには 2 週おきはあり得ると思う、との発言があった。

山崎より、プログラム検討サブチームがタイミングを決めるトリガーになると思うが、プログラム検討サブチームとしては 1 週早めた方がよいか、それとも 22 日で問題ないか？

堀田氏より、プログラム検討サブチームはチームが選定されれば後は個別調整で、各セッションも実際のオーガナイザーや登壇者が準備をすることが中心となるので、物理会合をきっかけに何か動くことはないと思う、との発言があった。

山崎より、イベントサブチームとしては 1 週早める必要はない、参加者ですでに退出された方で水曜日がダメな方もいるし、21 日でもぎりぎり大丈夫なことが判明した、チャットで火曜日にそろえてはどうか、という意見があった、との発言を行った。

高松氏より、水曜日という認識で退出された参加者がいるので、21 日か 22 日のどちらかにするかというのを調整サイトで立ててもらいメーリングリストに投稿してそれで日付を確定してはどうか、との提案があった。

山崎より、明日中には必ずメーリングリストに送るようにするので、明後日くらいには決めるようにしたい、と発言した。

【調整サイトへの入力に基づき、メーリングリストでの確認の結果、次回会合は、9 月 21 日火曜日 17 時 00 分から開催することが 9 月 2 日に決定された。】

4.7. その他

前村より、他に情報共有や言っておかなければならないことがあるかどうか確認を行ったが、特に発言はなかったため、チーム会合を終了する旨宣言した。

以上